

子どもたちへの読紙(=新聞の閲覧)調査で、社会面と並んでよく読まれている紙面は、スポーツ面です。好きなスポーツやチーム、ひいきの選手を取り上げた記事、迫力のある写真などが読者を引きつけるのでしょう。しかも、さまざまなスポーツの結果が幅広く掲載されています。朝日新聞は毎日、中ほどの数ページをスポーツ面に割いています。社会面と並ぶ大きなスペースです。他の全国紙もほぼ同様です。

スポーツ記事は、基本的にはニュース(=事実の報道)ですが、スポーツ面のトップ記事となるような結果は、その試合の実況放送やテレビのスポーツニュース等によりその日のうちに知ることができるので、二番煎じにならない工夫がされています。メインの記事は競技を実際に、あるいはテレビで見た人でも楽しめるよう、エピソードや勝負の駆け引きなど人間ドラマを丁寧に取材し、読み物仕立てにしていることが多いのです。私自身、ひいきのチームが勝った試合の観戦翌日のスポーツ面は、とても楽しみです。読み物もそうですし、各選手個人の成績がどうなったのかも、新聞でしか知ることができないからです。感慨にふける瞬間でもあります。

コラムニストの天野祐吉さんは、2012年5月23日の朝日新聞朝刊「CM天気図」の中で、「新聞が深度のメディアなら、テレビは鮮度のメディアである」と述べています。テレビやインターネットでは、ニュースを深く知ることは難しいでしょう。プロだけでなく、社会人の試合や大学、高校などの全国規模の大会結果がきめ細かく掲載されているのも新聞の良さでしょう。どんな記事がスポーツ面のトップを飾るかも楽しみの一つです。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)